

ホコテンは街に元気を取り戻したか!!

今年の夏、帯広の中心部では毎週日曜日歩行者天国が実施され、多くの方が訪れました。歩行者天国実施時には、通行量が昨年の約1.5倍に増えたという調査結果も出ています。

それでは、帯広の中心部は昔のような元気を取り戻したのでしょうか。訪れた人は、歩行者天国を楽しむことができたのでしょうか。

今回、「街づくりのカリスマ」と言われ、全国各地の街づくりに多大な貢献をされている青森市の加藤博氏をゲストに迎え、今年の「ホコテン」を振り返り、今後更に地域に親しまれ魅力のある「ホコテン」を実施し中心市街地の活性化につなげていくことを、多くの皆様と考えていただく機会として当シンポジウムを開催いたします。

是非、多くの皆様のご出席をお願いいたします。

◇日時 平成18年10月23日(月)午後6時から

◇場所 ホテルノースランド帯広(帯広市西2条南13丁目3)

◇受講料 無料

◇定員 100名

◇プログラム

18:00 開会・主催者挨拶

18:05 基調講演 「街ににぎわいをもたらすには」(55分)

講師：青森市街づくりあきんど隊長 加藤 博氏



1949年生まれ。青森県西津軽郡深浦町出身。明治大学農学部卒業。「この土地は、先祖からもらった物ではない、子孫から借り受けているのだ。」を心の拠り所に、毎月40回以上の会議に出席する。全てが「まちづくり」に関するものばかりで、これらが「天命」とも思っている。青森市新町商店街振興組合常務理事、青森商工会議所常議員、青森市中心市街地活性化協議会副会長、(有)PMO(パサージュ・マネージメント・オフィス)代表取締役社長 他役職多数

19:10 パネルディスカッション「ホコテンは街に元気を取り戻したか」

(1)報告「帯広まちなか歩行者天国を振り返る」

①「映像で振り返るホコテン」撮影：おびひろまちづくりネットワーク 代表 岩田博樹氏

②実施報告：ホコテン事務局他

(2)パネルディスカッション

コーディネーター：三島 敬子氏(株)セントラルプロモーション北海道 代表取締役)

パネリスト：加藤 博氏

春口 奈緒氏(おびひろまちづくりネットワーク)

有澤 満夫氏(帯広まちなか歩行者天国実行委員会 副実行委員長)

20:50 閉会・主催者挨拶

◇申込み 10月20日(金)までに、帯広商工会議所までお申込み下さい。

◇主催 独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道支部・帯広商工会議所

帯広市商店街振興組合連合会・中心部活性化協議会・帯広まちなか歩行者天国実行委員会

◎申込み・問い合わせ先 帯広商工会議所商工観光課 担当：鈴木

TEL25-7121 FAX 25-2940

シンポジウム「ホコテンは街に元気を取り戻したか」受講申込書(10/23)

社名		住所	
電話		F A X	
受講者名		受講者名	
受講者名		受講者名	

※本申込書にご記入いただいた個人情報につきましては、シンポジウム実施における名簿作成、連絡等のみ使用いたします。

「街に賑わいをもたらすには」 コンパクトシティー構想によるまちづくり

講師 加藤 博氏（青森市「街づくりあきんど隊」隊長）

街をダメにしてしまったのは「自分を含めた市民」です。
ダメになるまでの20年から30年かかりました。そんな街を簡単には再生できません。復活するには同じくらいの年月がかかります。

一番大切なことは「いち早く危機を感じ、対策を立てて行動すること」です。
青森は20年前に気がつきました。対策を実施してから18年、ようやく明かりが見えるところまでたどり着きました。

危機感があってこそ、はじめて頑張れるのです。
一歩前に進み出よう。

中心市街地は街の顔

中心市街地はその市や町の長い歴史の中で文化・伝統を育んできたところが多い。その街が持っている独特の臭いや温もりを保ちながら、その核として各所の機能を培ってきた「まちの顔」といえる。「まちの顔」の衰退、あるいは停滞という状況をどう捉えどう立ち向かうかは、行政はもちろん、街に関わる多くの人々一人一人が真剣に考えなければならない重要なテーマである。

中心市街地においては、商業者のみの街を考えるのではなく、市民皆のものとして捉え、応援・協力して貰いながら、街づくりを進めていく姿勢が大切である。

今元気のある都市は一局集中型の都市です。（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡、那覇）
その周辺都市が影響を受けています。

その一方、陸の孤島では頑張っています。地産地消を共有し、多くの市民が意識しているからです。

青森は雪が多く、たった3ヶ月の除雪費が25億円にもなります。
街が拡大し、エリアが広がっていくと経費が増大します。
エリアを抑制するために、「自然環境保全」という政策を打ち出しました。
持続可能な都市経営、すなわち「コンパクトシティー」です。

青森市の目指す政策

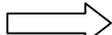
- ★農家の育成
良質な生産物を商店街が流通させる（地産地消）
- ★機能を中心部に集中させる
鉄道・バス（公共交通機関アクセス）、大型店、公共施設・・・・利便性のある街。

空洞化の原因は

1. 人口の郊外への流出
高度経済成長期の流れとして、しかたがない時代であった。

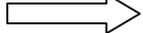


高齢者が除雪できず、まちなか居住にシフトしている。
5年で812戸入居のマンションが建つ。

2. 公共施設の郊外移転
病院などが移転。  歩き回れる街、遊歩街（ウォーカブルタウン）

青森市コンパクトシティー構想は

「まちなか居住」、「遊歩街」

商店街  努力したものだけが甦る。

元気のない商店街は「意思統一が出来ない」「目標・理念がない」

人と車のどちらが大事かと言えば、当然「人が大事」になる。  共通認識

★商店街として企業論理を取り入れるべき。

商店街事業としてイベント、売出し、環境整備など、商店街全体としての損益を考えない。

長期的目的を持つところが少なく、短期的にも決まったことだけを消化しているだけ。

理事会などでの意志決定を全体に伝えるべき命令系統が機能していない。

管理能力がない。

商店街活動のための人材が乏しい。

青森では実際に何をやったか？

1. 街路整備

アンケートで自転車通行が危険との意見があったため、車道を狭め歩道を広げる。

タクシー関連会社が猛反発したが、「車と人間どちらが大事か？」という問いかけをして説得してまわる。

2. タウンモビリティ事業

高齢者や障害者の独力での移動に困難を伴う人に、「電動スクーター」（免許が要らない）の貸し出し。

3. 商業ベンチャー支援事業

パサージュ（通り抜けのこみち）広場を運営する有限会社TMO（商業者 20 人、商店街振興組合など 4 団体が出資）を設立。広場内に仮店舗を設けて、企業意欲のある人に低い開業資金で一定期間商売を実践させる。経営指導をしながら商業者を育成。

4. 福祉イラストマップ

障害者や高齢者が安心して買物や散策が出来るように、必要な施設を掲載。

（車椅子用トイレ、手摺付きトイレ、車椅子常備施設、車椅子用公衆電話、障害者宿泊室のある宿泊場所、電動スクーター貸出場所）

5. 買物宅配事業

買物をした後、お客様が荷物を持たずに手ぶらで帰宅できるように、1 個 300 円の低料金で自宅まで配達するサービス。7 商店街 160 店舗が加盟。午後 4 時までに受け付けたものは当日配送。

各店からの集荷を NPO「サンネット青森」が担当し、地元の運送業者が配達するシステム。

6. 一店逸品運動

大手量販店には絶対まねの出来ない作戦  一店逸品運動

自分の店の切り札に自信を持つ。  逸品開発、逸品研究会

各店が開発・発掘した商品について説明と内覧会開催。

お客様向けの「お店回りツアー」イベントを開催してアピール。

7. しんまちふれあい広場

障害者とのふれあいを目的に「歩行者天国」開催。

商店街の若手店主らが障害者 NPO やボランティア団体に声を掛けて始める。

特筆すべき点は、単に商店街主催のイベントではなく、多数の団体が協力し合って運営すること。

8. まちなかマーケットスクエア

閉店した老舗デパートの活用を考え、検討の結果、期間限定で地元の特産品や衣料品などを販売することになった。

生鮮食品、総菜、菓子、酒類、ファッション、アウトレット、インテリアなど 63 企業が旧デパート 1 階に出店。

実施に際し、管財人や裁判所の支援を得るために、大変な努力が必要だった。

9. 子育て支援事業

託児だけではなく、子育てに悩んでいる母親の相談にも対処できる拠点づくり。

「青森市つどいの広場」

10. 駅前再開発ビル

2001年1月、テナントビル「アウガ」オープン。総工費185億円、「市の中心部に頃公共施設を」というコンパクトシティー政策の一環として建てられる。

地下1階 生鮮市場87店舗

1階～4階 ファッションビル

5・6階 青森市男女共同参画プラザ 「託児室」「つどいの広場」

6階一部～9階 市民図書館

事業は「継続していくこと」が大事。その為には「3年から5年でリニューアル」して変えていく。

「街元気リーダー」とは

商店街の若手を引っ張り、何度も集まりを重ねながらみんなのやる気を出させ、考え方に革命を起こしたリーダーがいました。そのリーダーのお陰で市民が活動に積極的に参加し、街に元気になりました。このようなリーダーを「街元気リーダー」と呼び、地域の仲間を先導し街が元気になるための取り組みを行っていく中心的人材になります。

リーダーとして周囲を引っ張って行くには、誰よりも勉強して活動に時間を費やさなければなりません。そしてみんなの意見を良く聞き、楽しい雰囲気を作ることが大事になります。

青森市長はリーダーについて次のように述べている。

「ハードウェアは必要だ。ソフトウェアはもっと大事だ。しかしそれよりもっと大事なのはハードウェア。心意気で心を込めて頑張る。自分の街を大事にする。三つ揃って初めて成功できる街になる。」

講演会と加藤博氏著書「挑戦するまち」から抜粋